

《皆さまからお寄せいただいた写真》※その一部を地区別にご紹介します。

【本庁地区】



アオバズク (No. 33)



アオゲラ (No. 33 仙波東照宮) カワセミ (No. 33 仙波東照宮)



シロハラ (No. 33 中院)



ツミ (No. 33)



ルリビタキ (No. 33 仙波東照宮)

【芳野地区】



カモメ・コサギの群れ (No. 36 伊佐沼)



カルガモの親子 (No. 61 伊佐沼)

【古谷・南古谷地区】



ヒヨドリ (No. 60 川越グリーンパーク)



メジロ (No. 61 自宅の庭)



ダイサギ (No. 37 新河岸川)



モズ (No. 47 新河岸川)

【高階・福原地区】



コサギ (No. 37 寺尾調節池)



アオサギ (No. 37 寺尾調節池)



ヒバリ (No. 47 畑)



キジ (No. 47 新河岸川)

【大東地区】

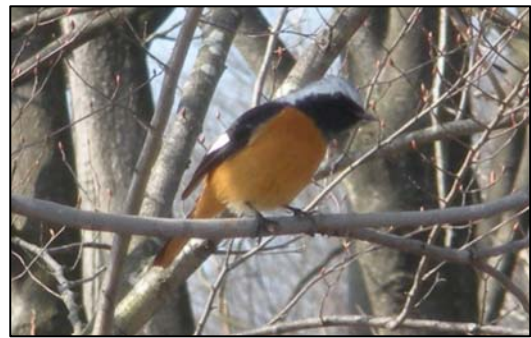


シメ (No. 5 川越水上公園)



ヒヨドリ (No. 9 自宅の庭)

【霞ヶ関・霞ヶ関北・川鶴地区】



モズ・ジョウビタキ (No. 26 安比奈親水公園)



カワセミ・セグロセキレイ・コサギ (No. 36 南小畔川)



ノスリ・コゲラ・スズメ (No. 5 入間川)



アオサギ・バン (No. 3 小畔水鳥の郷公園)

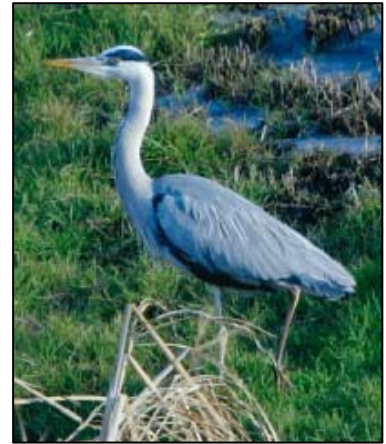
【名細地区】



シジュウカラ・ヒヨドリ (No. 2 自宅の庭)



シジュウカラ・メジロ (No. 3 学校敷地)



アオサギ (No. 3 小畔川)



キセキレイ (No. 23 小畔川)



イカル (No. 32 つばさ館近辺)



オオタカ (No. 34 小畔川)

【山田地区】



キジ (No. 42 大字寺山地内)



チョウゲンボウ (No. 44 自動車製品工場裏)

iii) 保護が望まれる鳥類

希少種として埼玉県レッドデータブック（2008 動物編）に記載されている種を選定しました。皆さまでいただいた野鳥のデータ74種のうち、20種類が上記レッドデータブックに掲載されていました。

ちなみに県内で生息している331種（埼玉県レッドデータブック 2008）のうち、97種が上記レッドデータブックに掲載されています。

種名	目	科	埼玉県	国	その他
チュウサギ	コウノトリ目	サギ科	(繁殖鳥) 絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	
オオタカ	タカ目	タカ科	(繁殖鳥) 絶滅危惧Ⅱ類 (越冬鳥) 絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	種の保存法対象種
ツミ	タカ目	タカ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
ハイタカ	タカ目	タカ科	(繁殖鳥) 情報不足 (越冬鳥) 準絶滅危惧	準絶滅危惧	
ノスリ	タカ目	タカ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧 (越冬鳥) 準絶滅危惧	—	
チョウゲンボウ	タカ目	ハヤブサ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
イカルチドリ	チドリ目	チドリ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
タゲリ	チドリ目	チドリ科	(越冬鳥) 準絶滅危惧	—	
イソシギ	チドリ目	シギ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
アオバズク	フクロウ目	フクロウ科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
カワセミ	ブッポウソウ目	カワセミ科	(繁殖鳥) 絶滅のおそれのある地域個体群	—	
アオゲラ	キツツキ目	キツツキ科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
ルリビタキ	スズメ目	ツグミ科	(越冬鳥) 地帯別危惧	—	
ウグイス	スズメ目	ウグイス科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
エナガ	スズメ目	エナガ科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
ヤマガラ	スズメ目	シジュウカラ科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
ホオジロ	スズメ目	ホオジロ科	(繁殖鳥) 地帯別危惧	—	
アオジ	スズメ目	ホオジロ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
バン	ツル目	クイナ科	(繁殖鳥) 準絶滅危惧	—	
オオバン	ツル目	クイナ科	(繁殖鳥) 絶滅危惧ⅠA類	—	

《埼玉県レッドデータブック（2008 動物編）希少カテゴリー区分》

- ・絶滅種（既に絶滅したと考えられる種及び亜種）
- ・絶滅危惧種
 - I 類（絶滅の危機に瀕している種及び亜種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。）
 - I A 類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。）
 - I B 類（I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。）
 - II 類（絶滅の危機が増大している種及び亜種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。）
- ・準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種及び亜種。現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。）
- ・情報不足（評価するだけの情報が不足している種及び亜種。）

- ・絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの。）
- ・地帯別危惧（地帯別に見たときに存続基盤が脆弱な種及び亜種。現時点での全県的な絶滅危険度は低いですが、生息条件の変化によっては、地帯別絶滅または上位ランクに移行する要素を有するもの。）

【繁殖鳥】

巣・卵・ヒナ等の確認、若しくは、その種の繁殖期間内に最低3週間以上同一場所に生息し、さえずり、求愛などの繁殖行動により、同地域で繁殖していると考えられるもの。

【越冬鳥】

冬期間（主に11～2月）に、最低3週間以上にわたって、同一場所で生息が認められ、同地域で越冬していると考えられるもの。

【種の保存法】

正式には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」といい、国内外の絶滅のおそれのある野生生物を保護するために、平成5年4月に施行された。

8. ま と め

平成21年12月から平成22年3月までの短い期間でしたが、皆さまから沢山の情報を集めることができました。今回集まった情報は、本市における貴重な野鳥の資料として今後の施策に活用していきたいと思っております。今回皆さまからいただいた情報をみると、市街地や田、畑、寺院等の樹林地からも多くの情報が集まりましたが、特に伊佐沼や川越水上公園、御伊勢塚公園その他河川等から、沢山の情報をいただくことができました。やはり、池、沼、河川等の水辺のある自然環境の豊かな場所においては、水鳥その他の野鳥を観測するのに適していたのではないかと思います。また、市民の憩いの場として多くの人が集まるこのような場所は、人と自然との繋がりを持たせてくれる貴重な場所といえます。今回情報をお寄せ下さった方々や、この報告書を読んで下さった方々に、身近な自然環境や生物多様性について興味をもってもらえたら幸いです。

これまで市では、公園等の特定の場所についての自然環境調査を行なった経緯はあるものの、市全域において調査を行なったことはありませんでした。

今回寄せられた情報の中には、オオタカなど埼玉県内あるいは国内においても希少な野鳥として分類されているものもいくつか見つかりました。これらの情報をまとめると、本市における現在の自然環境は、まだ豊かであると言えるのではないかと思います。ただし、今後も森林伐採等が進んでいくと現在の自然環境も保てなくなる恐れがあります。

今回見つかった希少な野鳥その他の多様な生き物を次世代に遺していくためには、現状の緑を含めた自然環境をこれからも出来る限り保全していくと共に、失われた緑を取り戻していくことが必要であると考えます。

最後に、今回野鳥の調査を実施するにあたり、ご教示を下さった（財）埼玉県生態系保護協会 川越坂戸鶴ヶ島支部長 笠原啓一様をはじめ、かわごえ環境ネット自然環境部会、一部自治会、その他ご協力をいただいた全ての皆さまに厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 埼玉県レッドデータブック 2008 動物編
- 環境省（自然環境局野生生物課）ホームページ
- （仮称）川越市森林公園自然環境調査業務委託 報告書
- （仮称）川越市森林公園計画地内生物調査等業務委託 報告書
- 仙波河岸史跡公園自然環境調査業務 報告書
- （仮称）池辺公園自然環境調査検討業務委託 報告書



ダイサギとコサギ（宮澤宏次様提供写真）

平成21年度 自然環境調査
「あなたのまわりの野鳥をお知らせ下さい。」報告書
平成21年12月25日～平成22年3月31日
発行 川越市
問い合わせ先 環境部環境政策課
〒350-8601 川越市元町1-3-1
TEL 049-224-5866（直通）
E-mail: kankyoseisaku@city.kawagoe.saitama.jp

この報告書は再生紙を使用しています。